



平成30年度「株式学習ゲーム」 実施状況・アンケート調査結果

日 本 証 券 業 協 会
東 京 証 券 取 引 所

目次

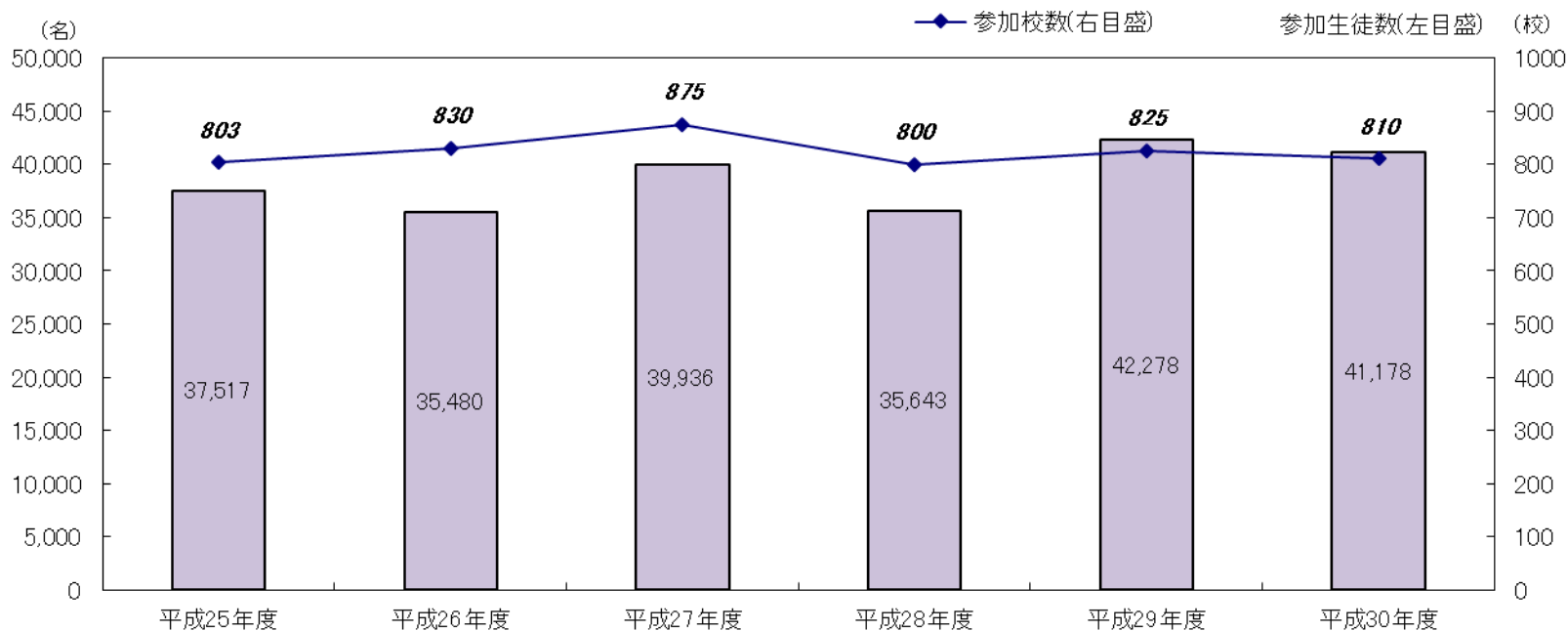
1. 実施状況
2. 株式学習ゲームを教材として導入した理由
3. 実施した授業科目
4. 株式学習ゲームの活用時間と取引頻度
5. 株式学習ゲームの難易度
6. 生徒・学生の取り組み姿勢
7. 株式学習ゲームによる学習効果
8. 生徒・学生の反応・感想等
9. 売買の傾向
10. 授業での工夫やアレンジなど

1. 実施状況

平成30年度の合計参加校数は前年度(825校)から減少し、810校となった。

また、参加人数については、前年度(42,278人)から減少し、41,178人となった。

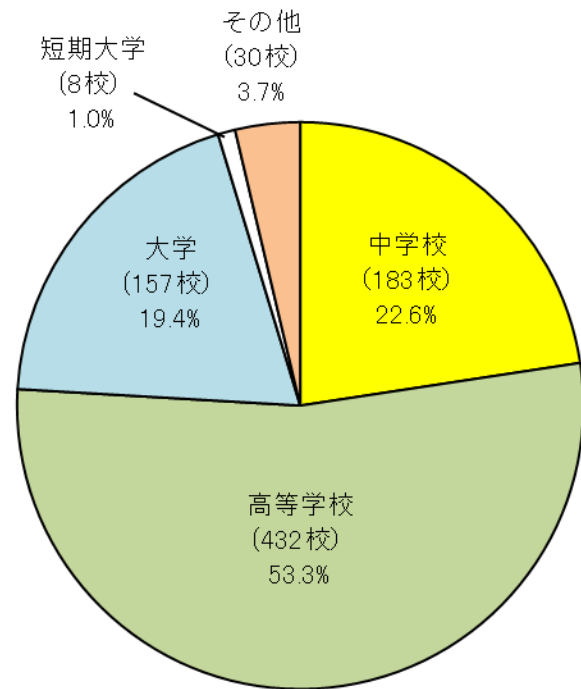
実施年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
参加校数	803	830	875	800	825	810
参加人数	37,517	35,480	39,936	35,643	42,278	41,178



※1 平成14年度以降はインターネット方式が併行導入されたため、従来方式のマークシート方式と合算した数値となっている。
※2 平成25年度からはマークシート方式を廃止したため、インターネット方式のみの数値となっている。

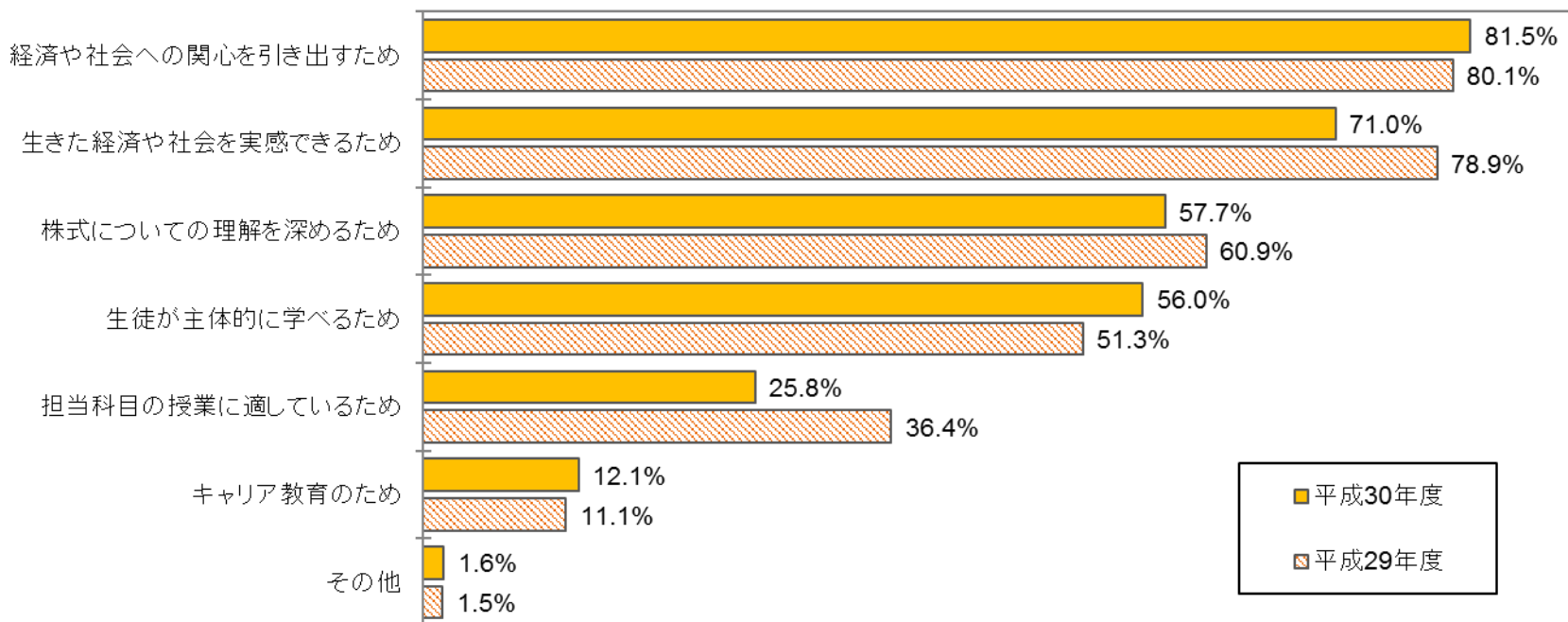
1. 実施状況

参加校(810校)の内訳は、
高等学校53.3%(432校)と最も多く、
次いで中学校が22.6%(183校)、
大学19.4%(157校)、短期大学1.0%(8校)、
その他の学校等が3.7%(30校)であった。



2. 株式学習ゲームを教材として導入した理由

前年度と同様「経済や社会への関心を引き出すため」という回答が81.5%（202校）と最も多かった。次いで、「生きた経済や社会を実感できるため」71.0%（176校）、「株式についての理解を深めるため」57.7%（143校）の順となっている。



(複数回答可)

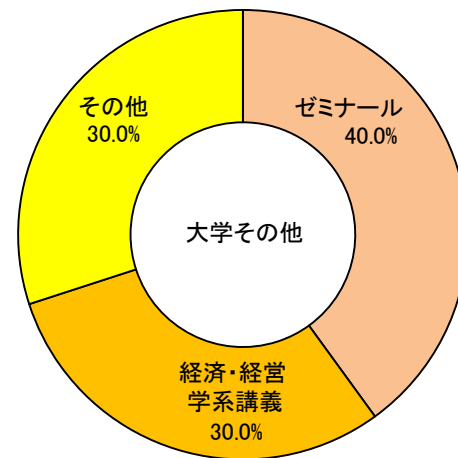
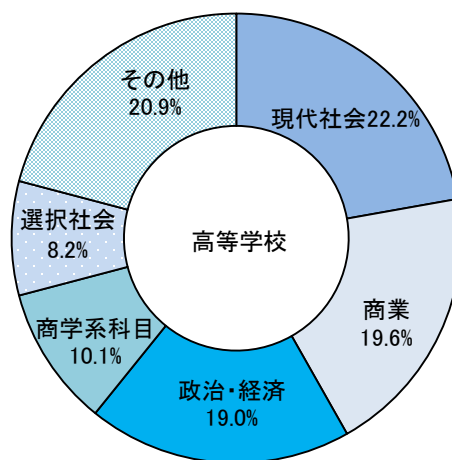
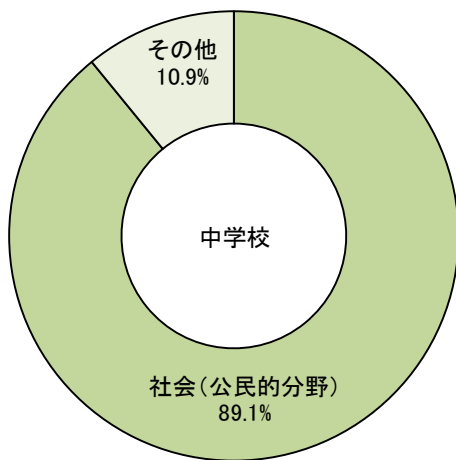
3. 実施した授業科目

中学校では、89.1%(57校)と、ほとんどが「社会(公民分野)」で実施していた。

高等学校では、「現代社会」の授業での実施が22.2%(35校)と最も多く、次いで、「商業」が19.6%(31校)、「政治・経済」が19.0%(30校)となった。

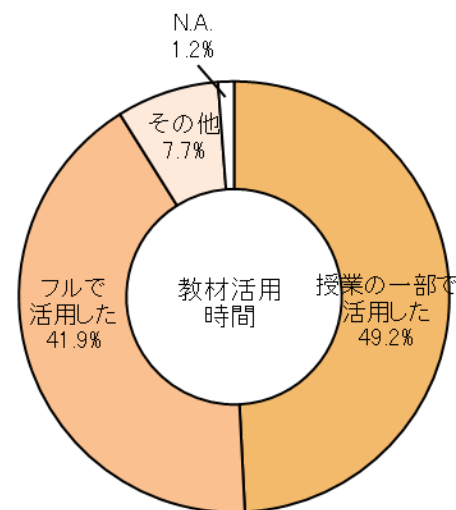
大学その他では、全体の40.0%(20校)が「ゼミナール」における実施となり、最も多い割合となった。次いで、「経済・経営学系講義※」が30.0%(15校)となっている。

※「経済・経営学系講義」には「証券・金融論」「経済学」「経営学」等を含む。

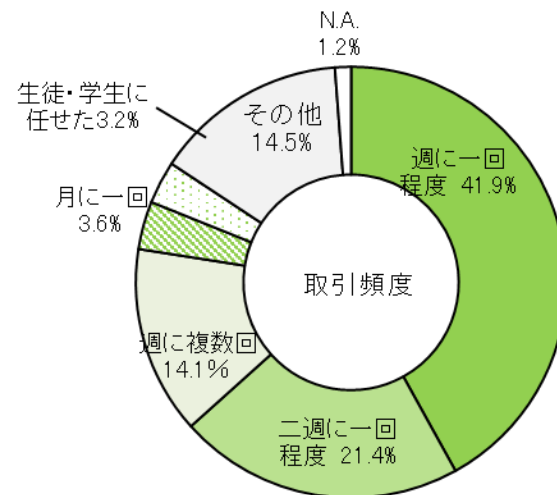


4. 株式学習ゲームの活用時間と取引頻度

一回の授業における活用時間については「授業時間のうち一部で活用した」という学校が最も多く49.2%（122校）、次いで「授業全体を通して活用した」との回答が41.9%（104校）となった。



取引頻度については、「週に一回程度」が41.9%（104校）と最も多く、次いで「二週間に一回程度」が21.4%（53校）という結果となった。

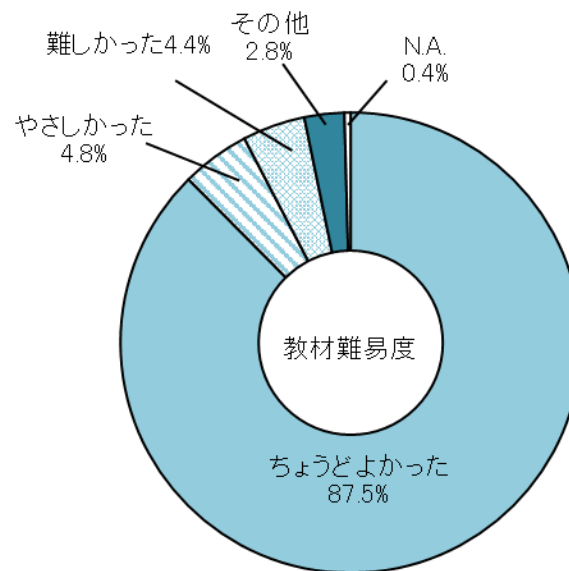


5. 株式学習ゲームの難易度

「ちょうどよかった」と回答した学校が87.5% (217校)と最も多かったが、「難しかった」と答えた学校も4.4% (11校)あった。

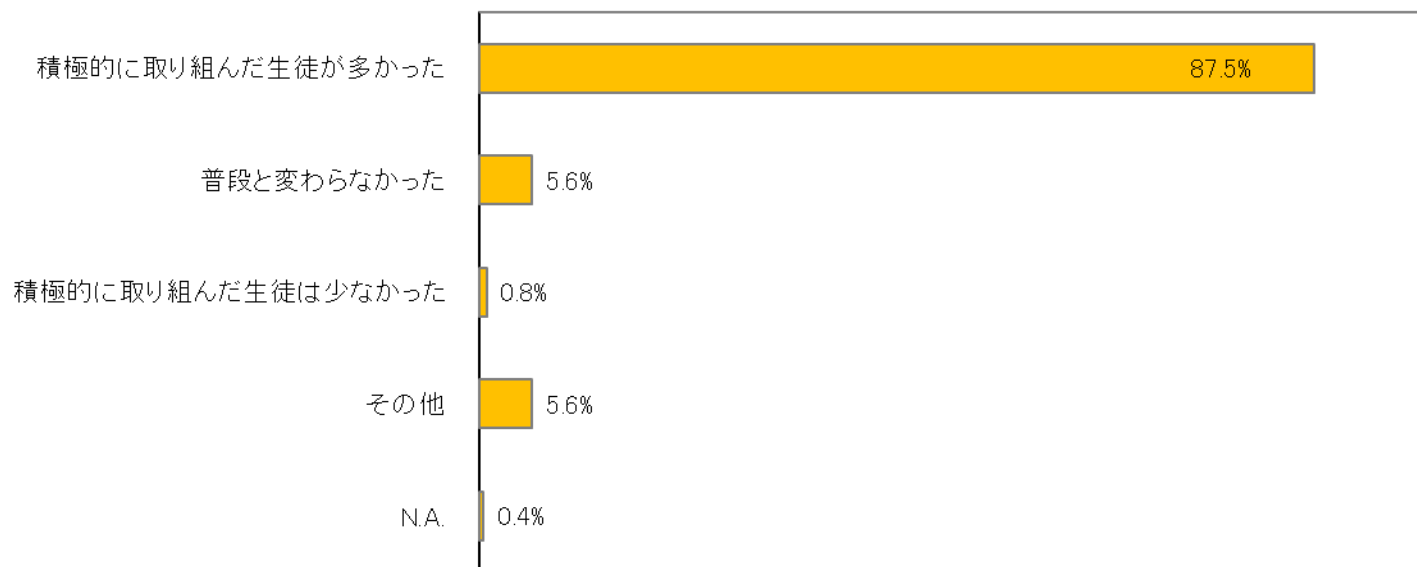
その内訳は中学校3校、高等学校7校、大学1校であり、具体的な理由として「株価を見る四季報を読み取ることが難しかった」、「新聞を見る習慣がない生徒・学生に、興味・関心を持たせるのが難しい」といったことが挙げられた。

また、「やさしかった」と回答した学校も4.8% (12校)あった。



6. 生徒・学生の取り組み姿勢

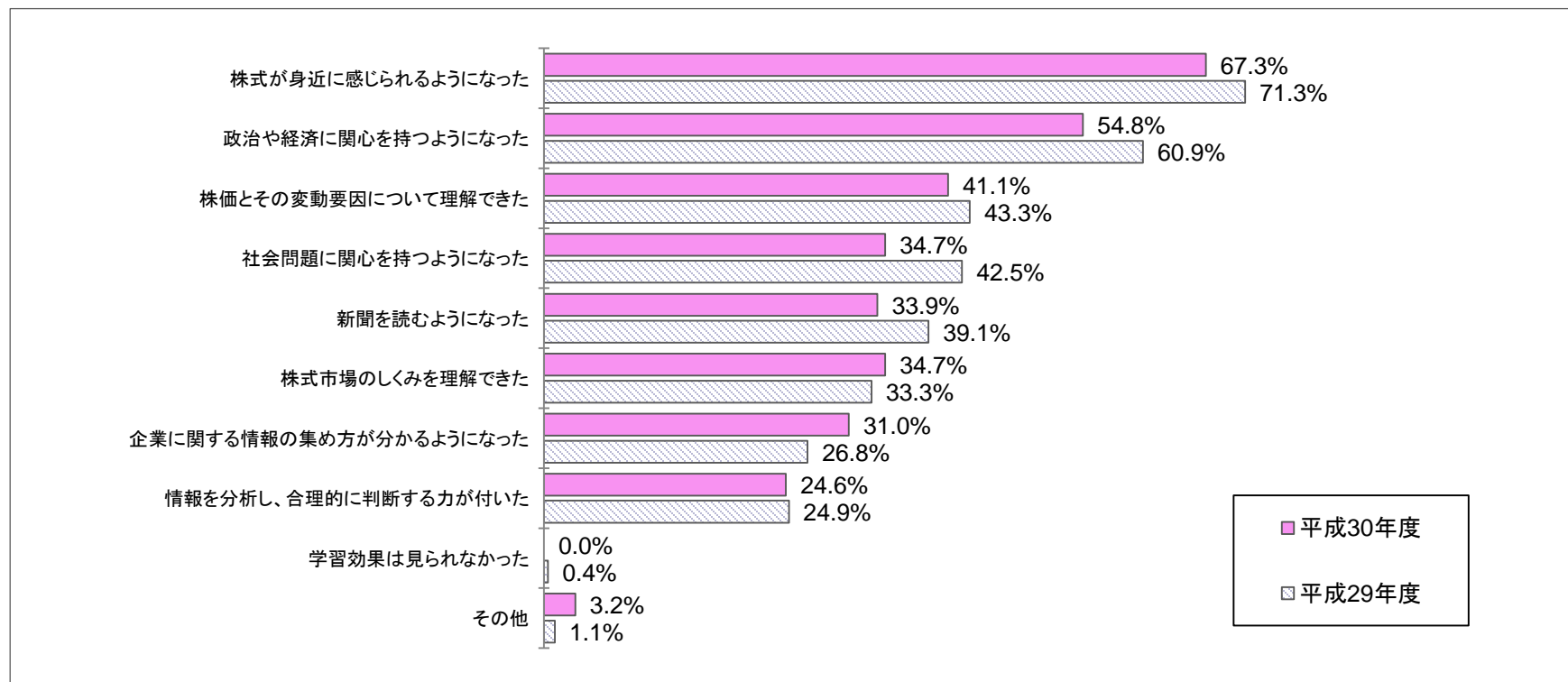
「積極的に取り組んだ生徒が多かった」が最も多く87.5% (217校)であった。以下「普段と変わらなかった」5.6% (14校)と続き、「積極的に取り組んだ生徒は少なかった」0.8% (2校)であった。



(複数回答可)

7. 株式学習ゲームによる学習効果

「株式が身近に感じられるようになった」67.3%（167校）が最も多く、以下、「政治や経済に関心を持つようになった」54.8%（136校）、「株価とその変動要因について理解できた」41.1%（102校）と続いた。



（複数回答可）

8. 生徒・学生の反応・感想等

生徒・学生たちは本教材を通じて、新聞やテレビなどのニュースに関心を持つようになり、経済・社会・企業について興味・関心を持って学習した様子が見えてくる。

先生方から見た全体的な生徒・学生の反応、感想等 (原文を要約後、区分)	回答数(校)
社会の変化と株価の連動を感じることができた	33
新聞やニュースに関心を持つようになった	31
リアリティがあって面白かった	25
株式(投資)が身近に感じられるようになった	15
株式の仕組みが分かった	13
将来実際に株式投資をしたいと思った	9
自ら進んで学習できた	4
株式投資は銘柄選びなどが難しかった	4
もっと長期間の取引がしたかった	4

9. 売買の傾向

例年と同様に、CMやニュース等で取り上げられる頻度が高く、生徒・学生の間で知名度が高いと思われる銘柄の売買回数が多かった。

順位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1位	任天堂	任天堂	任天堂
2位	トヨタ自動車	ソフトバンクグループ	ソフトバンクグループ
3位	ソニー	ソニー	ソニー
4位	セブン&アイ・ホールディングス	トヨタ自動車	トヨタ自動車
5位	ソフトバンクグループ	オリエンタルランド	オリエンタルランド
6位	明治ホールディングス	セブン&アイ・ホールディングス	コカ・コーラBJH
7位	東宝	LINE	楽天
8位	オリエンタルランド	楽天	LINE
9位	日本航空	森永製菓	セブン&アイ・ホールディングス
10位	イオン	タカラトミー	資生堂

10. 授業での工夫やアレンジなど

工夫している点・アレンジしている点等(原文を要約後、区分)	回答数(校)
オリジナルのプリント等を使用した	18
時事問題(新聞、テレビのニュース、インターネット等)を取り上げた	14
プレゼンテーションを行わせた	14
企業研究(CSR・ニュース・企業見学等)を行わせた	14
売買結果を記録させた	8
取引結果や順位を掲示した	6
購入の条件を追加した(分散投資を行う等)	6
レポートの提出を求めた	6
取引しやすい環境作りを行った	6
売買理由を明確にさせた	3
パワーポイントを活用した	3